

春を呼ぶ豆（エンドウ・ソラマメ）

栽培のポイント

●連作障害対策！

エンドウやソラマメは、連作することにより生育が不良となり障害が発生してきます。この対策は、輪作体系の確立と基本的な正しい土作りです。前作の残渣はバクヤーゼKで分解しておきましょう。



●こまめな追肥と保水性・排水性の両立！

柔らかく甘い莢を作るには、スムーズな肥大を狙うこと。莢や実をスムーズに肥大させるポイントは、受粉力の優れた花をつけさせることです。具体的には、開花ごとに追肥を行い、実(さや)の肥大促進と次の花の生長を促すことです。つぼみが見え始めた頃にリーフアップN+Pフォスタの葉面散布の効果も大きいです。

●根粒菌の働きを活性させる！

マメ科植物の根には根粒菌が共生し、チッ素成分は根粒菌によって供給されます。従って、マメ類はチッ素肥料が少なくても生育します。多いとかえってツルボケとなり、着果不良となります。チッ素を固定する根粒菌の栄養源は光合成産物です。従って、光合成を応援する発酵リン酸肥料MリンPKの効果が高くなります。

秋まきエンドウ・ソラマメでの施肥提案（1 a = 30坪）

資材名	元肥	追肥 (着莢開始から7~10日おきに施用)	葉面散布 (蕾の見え始め頃から連用する)
苦土入りMリンPK	2 kg	1 kg	リーフアップN 500倍 Pフォスタ 500倍
バクヤーゼK	30 kg	6~8 kg	



5~7日おきに連用する。リーフアップNの代わりにリーフA液材の800倍液で品質を高められます。

根粒菌と化成肥料

根粒菌はマメ類の根に共生する微生物です。土中の気相からチッ素ガスを吸収し、共生するマメ類に供給するありがたい菌です。しかし、多量の化成肥料を元肥に利用すると、その活力は低下します。根粒菌を活かすにはほかし肥とリン酸肥料が有効で、Mリン施肥設計が適しています。